

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a	13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務		

### 授業の到達目標

演習のテーマは、ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメントである。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような経営戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導き出す手法を身につける。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。

### 授業計画

1. 演習の概要説明
2. 課題の発表 I
3. 課題の発表 II
4. ホスピタリティ産業の市場環境(マクロ環境)
5. 5Factor
6. SegmentationとTargetingの理解
7. 企業理念と価値観
8. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
9. フィールドワーク 1
10. フィールドワーク成果発表
11. フィールドワーク 2
12. フィールドワーク成果発表
13. フィールドワークから見るホスピタリティ産業の現状
14. 研究テーマの取り組み方
15. まとめ

### 授業の方法

授業はゼミ生主体に進行する。レポートやパワーポイントを使用しディスカッション形式でおこなう。

### 準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

### 課題・評価方法

事前学習課題50%

発表50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

下記のいずれかを購入すること

浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版

小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社

### 参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社

内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞

Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社

Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

### 留意事項

事前学習の課題を第1回講義日に提出する。

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習 I の受講には、必ず「観光概論」、「観光事業論」を履修していることが条件である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b	13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子	必修	2			

### 授業の到達目標

音声学の基礎を理解する／英語の音素体系について理解する／音声の面白さを発見する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

### 授業の概要

声を出すしくみや発音をコントロールする調音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 英語学習についてのブレインストーミング
3. 「かな」より小さい音の単位
4. ことば遊び
5. 音象徴(調音法と音の印象)
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 調音器官
9. 発音チャート
10. 五十音図1
11. 五十音図2
12. 英語の子音の音声的特徴
13. 綴りと発音
14. 発表とディスカッション2-1  
日本語話者の英語観察と分析1
15. 発表とディスカッション2-2  
日本語話者の英語観察と分析2

### 授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)

TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

1. ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をパワーポイント等でまとめる。
2. 関空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画イベント等募集企画にもチャレンジする。

### 授業計画

1. 演習Ⅱの概要
2. フィールドワークのまとめと発表Ⅰ
3. フィールドワークのまとめと発表Ⅱ
4. フィールドワークのまとめと発表Ⅲ
5. フィールドワークのまとめと発表Ⅳ
6. フィールドワークPower PointによるプレゼンテーションⅠ
7. フィールドワークPower PointによるプレゼンテーションⅡ
8. 先行研究の調査Ⅰ
9. 先行研究の調査Ⅱ
10. 先行研究の調査Ⅲ
11. 先行研究の発表Ⅳ
12. 先行研究の発表Ⅴ
13. 先行研究の発表Ⅵ
14. 先行研究の発表Ⅶ
15. まとめ

### 授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

### 準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

### 課題・評価方法

課題50%、発表50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社  
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞  
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション  
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社  
 浜田麻里他 (2012) 『論文ワークブック』くろしお出版  
 小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』講談社

### 留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、必ず「観光概論」、「観光事業論」、「観光マーケティング論」を履修することが条件である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する/英語の韻律(イントネーション)の基本的特徴を理解し実践する/テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する/このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

### 授業の概要

演習Ⅰに引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

### 授業計画

1. 発表とディスカッション1-1
2. 発表とディスカッション1-2
3. 英語音声の特徴(母音の変化1)
4. 英語音声の特徴(母音の変化2)
5. 英語音声の特徴(母音の変化3)
6. 発表とディスカッション2-1
7. 発表とディスカッション2-2
8. 英語音声の特徴(子音1)
9. 英語音声の特徴(子音2)
10. 英語音声の特徴(音節主音の子音)
11. 英語音声の特徴(音の変化1)
12. 英語音声の特徴(音の変化2)
13. 発表とディスカッション3-1
14. 発表とディスカッション3-2
15. まとめ

### 授業の方法

講義とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)  
 TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

### 授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方(研究計画について)
4. 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
5. 個人発表と質疑応答
6. 個人発表と質疑応答
7. 個人発表と質疑応答
8. 個人発表と質疑応答
9. 個人発表と質疑応答
10. 個人発表と質疑応答
11. 個人発表と質疑応答
12. 個人発表と質疑応答
13. 個人発表と質疑応答
14. 個人発表と質疑応答
15. まとめ

### 授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

### 準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

### 課題・評価方法

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

下記のいずれかを購入すること

浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版  
小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社

### 参考図書

研究テーマ別に紹介する。

内藤耕(2015)『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社  
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞  
Kotler(2003)『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション  
M.E.Poter(2012)『競争の戦略』ダイヤモンド社  
Jay B. Barney(2011)『企業戦略論』ダイヤモンド社

### 留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

英語や日本語の音声の特徴、音象徴の傾向について分析し理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込み調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

### 授業の概要

引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析し、考察をする。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込み、調査を進めるために、発表・ディスカッションや各自の文献調査を行う。

### 授業計画

1. 卒業研究の進め方
  - 第5章 学生たちが見つけた音象徴①
  - 第5章 学生たちが見つけた音象徴②
  - 第5章 学生たちが見つけた音象徴③
4. 第6章 ポケモンでする音象徴研究①
5. 第6章 ポケモンでする音象徴研究②
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 第7章 音象徴・音声学を考える①
9. 第7章 音象徴・音声学を考える②
10. 第7章 音象徴・音声学を考える③
11. 論文研究①
12. 論文研究②
13. 発表とディスカッション2-1
14. 発表とディスカッション2-2
15. まとめ

### 授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)  
TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。



演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

### 授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3. 研究計画書の作成
4. 研究計画書の発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

### 授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

### 準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

### 課題・評価方法

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

研究テーマ別に紹介する。  
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』 旅行新聞社  
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』 日刊工業新聞  
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』  
 ピアソン・エデュケーション  
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』 ダイアモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』 ダイアモンド社  
 浜田麻里他 (2012) 『論文ワークブック』 くろしお出版  
 小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社

### 留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

音声の他、ことばの魅力について調査・分析・考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進め、まとめる／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

### 授業の概要

英語音声・日本語音声の他、卒業研究のテーマと関連する文献等を調査し、要約をしたり考察をしたりする練習を積む。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する。

### 授業計画

1. イントロダクション  
卒業研究について
2. 文献調査と分析 1-1
3. 文献調査と分析 1-2
4. 文献調査と分析 2-1
5. 文献調査と分析 2-2
6. 文献調査と分析 3-1
7. 文献調査と分析 3-2
8. 文献調査と分析 4-1
9. 文献調査と分析 4-2
10. まとめ
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 口頭試問について
14. まとめ
15. 卒業研究口頭試問

### 授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)  
 TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (海外)			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

### 授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

### 授業の概要

興味のある学生は各担当教員に問い合わせてください。

【アシスタント・ティーチャープログラム】

カリフォルニア州トランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上

・期間：春季休暇中10日間以上

・委託機関：ライトハウス

・担当：酒井

【イベントコース：まつりインハワイ】

「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。

・対象学科・学年：ET学科2年次生以上

・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修

・委託機関：近畿日本ツーリスト

・担当：石原

【観光ビジネスコース】

ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。

・対象学科・学年：ET学科2年次生以上

・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して3～4週間

・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人

・担当：佐伯

### 授業計画

1. 事前学習
2. 事前学習
3. 現地実習
4. 現地実習

5. 現地実習

6. 現地実習

7. 現地実習

8. 現地実習

9. 現地実習

10. 現地実習

11. 現地実習

12. 現地実習

13. 現地実習

14. 現地実習

15. ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

### 授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

### 準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

### 課題・評価方法

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。

①2～3回の事前学習(英語研修や実習準備など)

②現地実習

③ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)と発表

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山と見るのではなく、学問的視点から捉えていく。観光学入門講座である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

### 授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、法律、心理、産業等幅広い内容で講義される。

### 授業計画

1. ガイダンス
  2. 観光の意味と語源
  3. 観光史:ヨーロッパにおける旅と観光
  4. 観光史:日本の旅と文化
  5. 観光史:昭和から平成、その社会と観光
  6. 観光と行政:日本の観光の仕組みと観光行政
  7. 観光と地域文化:観光資源と地域文化
  8. 観光経済:観光における経済的役割
  9. 観光心理:観光の心理学的考察
  10. 観光と交通:鉄道事業と国内観光
  11. 国際観光の役割:航空業とグローバル社会
  12. 観光と宿泊業:宿の歴史と世界のホテル業
  13. 交流型観光:旅行業の歴史と仕組み、モノからコトへ
  14. 観光とテーマパーク:余暇の過ごし方とテーマパーク
  15. 地域社会とITC
- 総括試験

### 授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

### 準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

### 課題・評価方法

課題30% 統括試験70%

### 欠席について

本学の規定通り。

### テキスト

白土健他『新観光を学ぶ』八千代出版 2017

### 参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社

岡本伸之『観光学入門』有斐閣

北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房

イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

### 留意事項

観光領域の基礎科目である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I/II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光は、観光行政と観光産業で構成される。これらを合わせて観光事業と理解されている。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解する。また、産業としての観光事業を各業界別に理解する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策、観光産業の2本の分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. 旅行事業
10. ホテル・旅館事業
11. 航空輸送事業
12. 鉄道事業
13. 地域観光: 地域と観光
14. 地域観光: 地域と観光
15. まとめと総括試験

### 授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に対し意見交換し、まとめをプレゼンテーションする。

る。

### 準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介する。受講生は事前学習として読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%、統括試験70%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社  
岡本伸之『観光学入門』有斐閣  
北川宗忠(2009)『現代の観光事業』ミネルヴァ書房  
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

### 留意事項

観光概論を発展した内容である。  
\*注(重要) 観光領域を学ぶ学生(観光領域ゼミ)は必ず履修すること。  
ゼミ選考の要件になる。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とB(倫理)を養う。

### 授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 世界遺産条約と登録制度
3. 文化的景観について
4. 日本の文化遺産①
5. 日本の文化遺産②
6. 日本の文化遺産③
7. 海外の文化遺産①
8. 海外の文化遺産②
9. 海外の文化遺産③
10. 無形文化遺産
11. 自然遺産①(国内)
12. 自然遺産②(海外)
13. 危機遺産・負の遺産
14. トランスバウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
15. まとめ

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

### 参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会  
『世界遺産ビジネス』木曾功著 小学館新書

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,300万人を超えた訪日外国人観光旅行(インバウンド)ビジネスや2020年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空(交通)についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス(訪日外国人旅行)について、地域との連携や課題について学ぶ。また、東京オリンピック、ワールドマスターズゲームなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 観光ビジネスの変遷について(マストゥリズムからの脱却)
3. 旅行業ビジネス①
4. 旅行業ビジネス②
5. 旅行業法・約款、景品表示法等
6. 宿泊業ビジネス
7. 航空業ビジネス
8. 交通事業ビジネス
9. MICEビジネス①
10. MICEビジネス②
11. スポーツツーリズム
12. インバウンドビジネス①
13. インバウンドビジネス②
14. 地域創生と観光ビジネス
15. まとめ

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

WEBで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著  
東洋経済新報社  
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社  
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

### 留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。いつの時代も企業が生まれ、成長し、衰退する。企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献するのはどのような企業なのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献とは何か。営利目的以外にも焦点をあて、現代社会における企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

### 授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。企業は誰の持ち物か。株主と何か、どのような力を行行使できるのか。さらに、各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業のリスクとは何か。受講者自ら対象企業を選び調査し分析する。講義は前半と後半に分け業種と企業を比較しながら理解を深める。特に、有価証券の見方を中心に対象企業をレポートにまとめ発表する。

### 授業計画

1. ガイダンス
  2. 個別企業研究
  3. 個別企業研究
  4. 個別企業研究
  5. 個別企業研究
  6. 個別企業研究
  7. 個別企業研究
  8. 企業研究の発表1
  9. 企業研究の発表1
  10. 個別企業研究
  11. 個別企業研究
  12. 個別企業研究
  13. 個別企業研究
  14. 企業研究の発表2
  15. 企業研究の発表2
- まとめ

### 授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。

発表はパワーポイントを使い行う。

### 準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。  
授業で注目した企業を紹介する。

### 課題・評価方法

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。

評価基準は2回の発表で評価する。

第1回50%

第2回50%

### 欠席について

規定通り

### テキスト

日経業界地図(日経出版社)

### 参考図書

会社四季報

### 留意事項

適宜アドバイスする。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。



基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎／一尾 敏正	選択	2	旅行会社勤務／ホテル勤務			

### 授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
  2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
  3. グループワーク課題を実践する。
  4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）
- このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

### 授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。合わせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。

### 授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 実地研修1日目：関空出発～目的地
7. 実地研修2日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
8. 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 実地研修4日目：研修地の移動
10. 実地研修5日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
11. 実地研修6日目：日系企業訪問
12. 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
13. 現地でのグループワークの事後発表の準備
14. 現地でのグループワークの事後発表

15. 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

### 授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

### 準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

### 課題・評価方法

事前研修、海外研修の総合評価。

### 欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。

### テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

### 参考図書

事前研修時に適宜指示する。

### 留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員（10名）の規定が適用される。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	1	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。また大型イベント（東京オリンピック・パラリンピック、大阪万博など）を控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

### 授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に行う。各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、自治体などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 講義①
3. 講義②
4. 講義③
5. 講義④
6. 講義⑤
7. 講義⑥
8. まとめと試験

### 授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求める。  
評価は平常点70％・定期試験30％

### 欠席について

学則の通り。

### テキスト

なし。随時プリントを配布する。

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

外部講師による講義であるので講義中の態度・服装には留意すること。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。



展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

企業環境を取り巻く環境は厳しい。特にホスピタリティ産業は製品・サービスが製造業などに比べ差別化が難しい。顧客に真の価値を理解してもらうためには組織が重要になる。魅力ある構成員と製品が一体となる必要がある。本講義は、ホスピタリティ産業におけるマネジメントをテーマに、組織管理と従業員のモチベーション向上に何が必要かを理解し学修する。企業経営の中心に必要な戦略を理解し学修する。ホスピタリティ産業の基礎的なマネジメント能力を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事例 (DVD)に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場における外部環境を理解しながら競争力について理解する。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業 (ホテル・旅館・テーマパーク等) から (DVD)学修する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティの歴史と文化
3. ホスピタリティ・サービスの語源
4. ホスピタリティ産業の製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. マーケティング戦略・インターナルマーケティング
7. マーケティング戦略・労働生産性
8. 旅行業のプロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略
9. 事業の破綻と再生から学ぶ
10. 高級ホテルのサービス手法を探る (ワオとは何か)
11. ニッチ市場を狙う旅行代理店 (高額所得者を顧客に持つ旅行代理店のマネジメント)
12. ホスピタリティ産業における企業戦略・大阪のビジネスホテルの事例から
13. ホスピタリティ産業における企業戦略のまとめ

14. ホスピタリティ産業における企業戦略のまとめ

15. まとめと総括試験

### 授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

### 準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%

総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通りとする。

### テキスト

特に予定していない。

### 参考図書

服部勝人 (2004) 『ホスピタリティマネジメント入門』丸善  
 Jay B. Barney (岡田正大訳) (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社  
 P.F. Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』  
 Kotler (平井祥訳) (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

### 留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を覗く事で講義の内容が活かされる。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光はディスティネーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。一つの企業だけが独り勝ちができない。市場環境や地域性の影響を受ける。観光マーケティング論では観光事業の市場での行動を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを理解する。ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修しマーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

講義はコトラー「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」を参考文献とし、マーケティングの基礎的内容から学修する。産業の特性やマーケティング戦略、ブランドポジショニングなど幅広く学修する。講義においては理論と事例を挙げて解説される。事例として、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。事例を通してマーケティング理解する。

### 授業計画

1. ガイダンス:観光マーケティング論概要
2. 観光とマーケティング
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システム
7. 消費者の心理と購買行動
8. 競争市場の原理
9. 市場細分化における戦略
10. マーケティングミックス (製品)
11. マーケティングミックス (価格)
12. マーケティングミックス (流通)
13. マーケティングミックス (プロモーション)
14. ディズニールランド運営から考えるマネジメント手法
15. まとめ

### 授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

### 準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

なし。資料配布する。

### 参考図書

Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション  
 M.E. Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

### 留意事項

基礎科目 (観光概論、観光事業論) の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	航空会社勤務			

### 授業の到達目標

アメリカから始まった空の規制緩和により我が国もオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化した。近年は長距離路線も拡充し一層便利になっている。また2012年から運航を開始した国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。この授業ではグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、観光立国を目指す我が国にとって航空業界の全体の動きと今後のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」についてアメリカの事例を考察しいかにして巨大航空会社が誕生し、それが世界の航空業界に波及していく状況をヨーロッパ、アジア、日本と順次考察する。その上で世界の3大グローバルアライアンスやLCC、国際ハブ空港の競争を含めた航空業界全体の動向を把握する。2020年は日本でオリンピックが開催され、世界から注目される我が国に於いて航空ツーリズムがどのように発展し訪日観光客4000万人達成を目標としているのかを考える。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 航空事業の特性
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. アメリカのLCC
8. 欧州とアジアのLCC
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
11. 世界の国際ハブ空港の競争
12. グローバルアライアンス
13. JALとANA
14. 航空機の進化とツーリズム

### 15. 航空業界の地球環境対策・まとめ

### 授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

### 準備学修

WEBで参照すること。

### 課題・評価方法

グループでのディスカッションと発表では教員によるフィードバックを行う。

評価は出席状況を含む平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

特別の理由のない欠席は減点する。

### テキスト

特に指定しない。適宜プリントや資料を配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

### 参考図書

『航空産業入門 第2版』（2017）ANA総合研究所  
『日本の空を問う』（2007）伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版  
『最新航空事業論・第2版』（2016）井上泰日子 日本評論社  
『航空産業とライフライン』（2011）戸崎 肇 学分社

### 留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

### 教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光立国を目指し訪日客誘致は宿泊業に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は特に旅館、ホテルの歴史や経営に関して学修する。グローバル時代における宿泊業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

### 授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修DVDを参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊業の市場特性
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. バンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

### 授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

### 準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

### 課題・評価方法

課題30%、総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通りとする。

### テキスト

鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

### 参考図書

適宜紹介  
オータパブリケーション『ホテルレストラン』  
柴田書店『ホテル旅館』

### 留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。